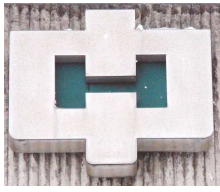


教育目標 「豊かな心で たくましく 自分の人生を切り拓く 生徒」

重点目標 「豊かな心 確かな学力 健やかな身体」



あ さ ひ こ
朝 日 子

佐渡市立畑野中学校 学校だより

平成29年 5月15日(月) 第3号

著・編 校長 加藤雄一郎 (TEL 66-2058)

啐啄同時 ～感動の協働作業＝親子のタイミング～

純野生 の朱鷺の雛が2年連続で確認されたというニュースが、4月末流れました。昨年、放鳥された朱鷺から生まれた“純野生”の雛は40年ぶりでしたので、「朱鷺の島・佐渡」にとって嬉しい知らせです。元気にすくすく育ってほしいと願っています。

さて、朱鷺は親鳥が卵を温めてから、約28日間で卵が孵るそうです。鳥の世界では、雛が生まれる前に、親鳥は不思議な行動をするそうです。くちばしを卵に近づけて、低い声で卵に語りかけるように、グルグル、グルグルと暇さえあればささやくのです。やがて、卵が孵る日か1日前になると、卵に反応が現れます。ほとんど目には分からない程微かに卵が動いて、中から微かにパイパイという雛の声がするそうです。親鳥のグルグル、グルグル…というささやきに、応えるように雛のパイパイ、パイパイ…というさえずりが繰り返され、ついには卵に一つの小さな穴が開き、雛のくちばしの先が現れ、親鳥のくちばしとふれ合うのです。親鳥はひときわ高い声で鳴き、その鳴き声は「がんばれ、がんばれ」と雛を励ましているようだといひます。雛のくちばしはさらにせわしく動き、少しずつ穴を広げていきます。親鳥もくちばしを使い外から穴を広げ応援します。やがて、卵は割れ、中から元気な雛が姿を現します。雛はこうして誕生するのだそうです。

新しい生命の誕生には、親と子の息の合った感動的な協働作業があったのです。雛は自分のくちばしで卵の殻をつつき、少しずつ時間をかけて自分で自分の殻を割っていく。親鳥は子ども（雛）のペースに合わせて、外から殻をつつく。この協働作業、雛と親鳥のタイミングが合って初めて、雛が卵から出で生まれてくるのです。

鳥の雛が卵の内側から殻をつつくことを「啐」と言ひます。逆に親鳥が外側から卵をつつくことを「啄」と言ひます。この「啐」と「啄」のタイミングがぴったり合っている状態を「啐啄同時」と言ひます。雛の啐がなければ親鳥は気付かない。親鳥の啄がずれると中の雛の命が危なくなる。早くても遅くてもいけない。「啐啄」は同時でないといけないのです。

ところで、学校においても、「啐啄」が大切です。皆さんと先生方の関係がそうです。君たちの学ぼうとする気持ちと先生方の教える呼吸がぴったりと合っていることが大切です。いくら先生方が熱心に指導なさっても、よく聞こう、よく学ぼうという真剣さがなければ、身に付きません。先生も頑張る、生徒も頑張る。先生と生徒の「啐啄」が同時に行われて、勉強や部活動、様々な行事等で、協働作業が進み、一人一人の「成長」「成果」という雛が誕生するのです。皆さんの普段の授業や部活動、いろいろな活動を見ていると、先生方の熱心な話を素直に聞き、真剣に学んだり、まじめに活動に取り組んだりして、力を付けている人がたくさんいます。正に「啐啄同時」が行われ、とても良いことだと思ひます。これからも、この「啐啄同時」を意識して行動してみてください。

同じように親子関係でも「啐啄同時」が大事だと考えます。畑野中では「自立と自己実現」をキーワードに生徒を支援しています。中学生になって、子どもたちは不安定な時期もありますが、確実に成長しています。そんな時、子どもが自分でやろうとしているのを待ちきれず、先回りして親がついつい手助けをしてしまうことがあります。子どもの自主性や自立性を育てるには、ちょっと待って、子どもに任せたり、「どうしたいの?」と問いかけて本人に自分の考えを言わせたりすることが大切です。子どもは子どもなりによく考えているものです。親が出過ぎず、子ども本来の伸びていく力、自分で判断し考え行動する力を焦らず大らかに見守る。困って助けを求めている時はしっかり話を聞く。この親子の「啐」と「啄」のタイミングを合わせることは、自立をしようと成長している中学生にとって、とても大事なことであると考えます。

(5月8日 全校朝会 校長講話を一部修正)



生徒総会の参加態度立派 ～生徒会方針決定～

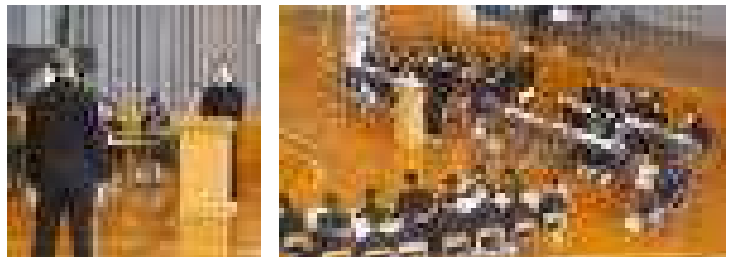
生徒会の今年度の方針や計画等を審議する生徒総会が4月28日に行われ、活動方針が決まりました。

- 1 ルールとマナーが守れる畑中 ～爽やかな畑野中に！ ルールを守るのは畑野の誇り～
- 2 熱く、温かい畑中 ～全員が何事にも「積極的に」「全力で」「周りに流されずに」行動～
- 3 地域に貢献する畑中 ～人のために活動できる、人に優しくできる生徒、心ある畑野中に～

の3つです。昨年度の成果を引き継ぎ、さらに一歩前進させる本部の思いが込められた方針です。特に、「人のために活動できる、人に優しくできる心をもった生徒、心がある畑野中を目指していきたい」には、畑野中の誇りと地域への感謝の気持ちを忘れない畑野中らしい思いを感じます。

生徒会スローガンは、「一心不乱～新たなる挑戦～」に決まりました。学習も生活態度も部活動も全身全霊で取り組み、100%の力を出し切るとともに、全校生徒が心をつなげて支え合い協力し合いつつ、畑野中の黄金時代を継承しつつ、新しい畑野中の魅力をつくるために挑戦していこうという意味が込められています。一人一人の思いと行動が1つにまとまったとき、その力は数倍にもなることでしょう。

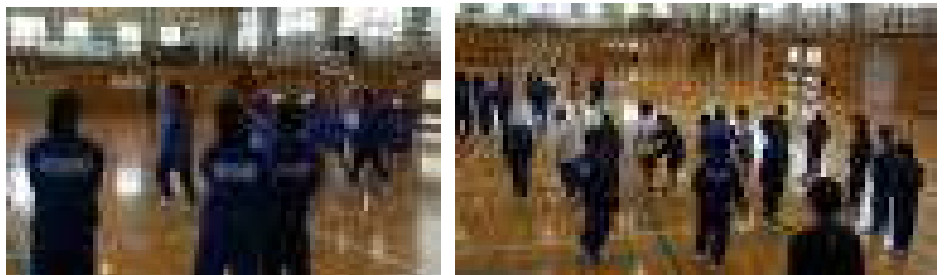
また、議案審議では、参加者の聞く態度、質問する態度が立派でした。2・3年生は学校生活をよりよくする意見や要望が多くあり、1年生も分からないことを積極的に質問していてとてもよかったです。併せて委員会活動のよい面についても意見が出され、お互いを認め合う雰囲気が高まっており、昨年度より一つ成長した生徒総会でした。



1年生、先輩として活躍 ～小6に見本示す～

小中連携合同体育を10日、畑野小体育館で行いました。畑野中1年生が畑野小6年生に集団行動を教えて来ました。1年生も2年生との合同体育で教えてもらった点呼の仕方や集団行動を、今度は小学生に見本を見せたり、自分たちが教えたりしました。最後は3グループに分かれ、お兄さんお姉さんぶりを発揮して明るく楽しく教えていました。小学6年生は授業のめあて「最上級生として、運動会を成功させよう！→開閉会式でかっこよく行動できるようになろう」を受け、真剣に取り組んでいました。小学校の運動会前にテキパキとした集団行動や号令の掛け方等、参考になったようです。

畑野中の体育担当の土屋先生と小6担任の磯野先生が連絡・調整しこの授業が実現しました。磯野先生は「たった1か月でこんなにも成長するんですね。」と卒業したばかりの1年生の言動を見て、感激し笑顔で語ってくれました。



JRC登録式 1年生も仲間入り

青少年赤十字登録式が10日、行われました。畑野中では、生徒会本部が中心となり全校生徒や有志でJRCの活動を行っています。1年生はJRCバッジの交付を受け、畑野中のJRC会員に加わりました。JRC講師の松井先生からは、畑野中の生徒が整然と話を聞き、素晴らしい態度で式に臨んでおり、とても立派な登録式でしたと褒めていただきました。私も最後に、国際理解の視点から、昨年トレセンで聞いた「子ども兵士」の話とカンボジアでの学校へ行かない子どもの話をさせてもらいました。どんな話だったかは、お子さんに尋ねてください。

JRCの「気づき」「考え」「実行」の行動目標を校外で実践してくれることを期待しています。

